

編集後記

本号を最終的にまとめている現在、西日本一帯に記録的な豪雨が発生し、土砂崩れや浸水などで小児を含む100名以上が亡くなるという痛ましいニュースが報じられています。亡くなられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被害にあわれた方々へ心からお見舞いを申し上げます。一方では、タイで少年13人が2週間以上洞窟に閉じ込められたものの全員が見つかり、いよいよ救出が始まったというニュースも報じられ、子どもたちの逞しさに驚かされています。

さて、本号では、小児医療の第一線におられる先生方にとって最も関心の高い分野の一つである乳幼児喘息を取り上げ「クリニックにおける乳幼児喘息のプライマリ・ケア」として特集を組みました。かつてに比べればはるかに軽症化した乳幼児喘息ですが、一方ではその数は増加し、増悪因子である感染症への対応、日常生活の支援、そして入院治療の必要性を的確に判断することが求められるなど、まさにプライマリ・ケアで診る疾患であろうと思います。今回の特集7論文のうち6論文を、自身のクリニックで診療を行っている先生方に執筆をお願いしたのも本特集の特徴です。第一線で乳幼児喘息診療を行っておられる専門の先生方からのメッセージを、ぜひご覧ください。

世界全体では小児死亡原因の第2位を占める小児下痢症の発展途上国における状況、小児における慢性腎臓病特有の合併症として低身長や発達・社会性

の獲得障害などが浮き彫りになってきた新たな課題と対応、そして日常的疾患でもある伝染性紅斑の病原パルボウイルスB19の院内感染対策および職業感染対策の対応経験などを「綜説」としてまとめていただきました。日常生活で多くみられる手湿疹、細菌感染症の際に産生される血清プロカルシトニンの川崎病における意義などについては「診療」として寄稿していただきました。

メサラジン不耐潰瘍性大腸炎、ベンフォチアミンに対する遅延型過敏反応例、肺炎球菌敗血症に伴ったHHESなど、興味深い症例報告を今回もいただきました。

虐待や非行を原因として、家庭や施設に居場所を失った10代後半の子どもたちの避難場所である子どもシェルターを開設した経緯、道のり、理念、課題について、弁護士である坪井節子先生から「社会小児科学」としてご寄稿いただきました。「子どもたちが求めているのは、回答でも救済でもなく、ひとりぼっちにしないでということ」「私たちはひとりでは何もできない。だから多くの人とつながり、スクラムを組んで、この子を真ん中に抱きしめ続ける。そこから、新たな智恵も勇気も与えられ、希望が生まれる」とあります。子どもの成長を見守る者として、どのように子どもの虐待にかかわれるか。ぜひご一読いただきたいと思います。

(岡部 信彦)

編集：伊藤保彦・河野陽一・中西敏雄・岡部信彦・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第59巻第9号 8月号

2018年8月1日発行（毎月1回1日発行）

定価（本体2,600円＋税）

年間購読料金

定価（本体41,000円＋税）

〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕

Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕

Fax 03(3813)0288

<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-3513-6969、FAX：03-3513-6979、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。